

詩編 10 編の黙想：主よ、立ち上がってください（2020 年 4 月 30 日用 TM）

9 編、10 編は元来続いており（旧約聖書のギリシヤ語訳では 1 つ）、不完全ですが、各行の先頭がアルファベット順になっています。10 編の 1 節は Alpha ではなく、Lamed（英語の I）で始まります。9 編は感謝に溢れた歌であり、10 編は懇願に満ちた歌です。キリスト教神秘家たちの伝統では、神の「蝕・闇」（Finsternis）」の経験があるといわれます。黙想・瞑想が極まったと思う最後の瞬間、突然神が遠く感じられるのです。信仰が深まるにつれて、神との断絶を経験するらしいのです。それはゲッセマネと十字架上での主イエスの経験でもありました。神が存在しないのではなく、日蝕で月が太陽と地球の間を塞ぎ、光が見えなくなるように、神は「隠れておられる」と感じる経験です。この詩の場合、具体的には、詩人を告発し、責めたて、策略に陥れようとする者との対峙の現状です。余りの理不尽さに神が遠くに感じても、イエス様ご自身がその闇を経験され、なお、父なる神を信じるお方であられることに慰めを見出しましょう。まず、ご自分で、祈りつつ、詩編 10 を読みましょう。

・神に逆らう者：詩人を苦しめる、神に逆らう者は、強欲であり、「今だけ、金だけ、自分だけ」で金を儲けることしか考えません。口先では神を賛美しながら、その実、侮っている。高慢で神を求めず、神を無視している。彼・彼女のそのような態度には、神は高すぎて？ 視野に入らないのです。「悪い奴ほど良く眠る」といいますが、彼らは自分を誇示し、金銭的に幸せで、揺らぐことなく、災いに遭わないと自負しています。7 節の「口と舌」は何かを語るというより、「呪い、詐欺、搾取、災い」を口と舌に甘い蜜のように味わい尽くすという意味でしょうか。彼らは、「貧しい人」を待ち伏せし、獲物を狙うライオンのように、罠をしかける者のように罠に陥れ、「不運な人」はその手に陥ってしまうのです。

・「貧しい人」としての信仰者：神を侮る者の豊かさに比べ、信仰者は「貧しい人」（2、9、12、17）、「不運な人」（8、10、14）「罪もない人」（8）です。ある人はそれぞれを「哀れな人」（2、9、12、17）、「不幸な人」（8、10、14）と翻訳します。ある人は「小さき人」（2、9）、「貧しい人」、「へりくだる者」と翻訳します。「アナヴィーム」は「重荷を負わされ、貧しく、小さくされた者」を意味し、マタイ 11:29、21:5 では、重荷を負わされ小さく貧しくされた結果、他者の痛みが理解できる「柔和」な人と翻訳されています。「不運な人」（「レヘカイーム」（8、10、14）の「ハーラク」とは wretched で「貧しく、みじめで、哀れな」の謂。Amazing grace（新生讃美歌 301「いかなる恵みぞ」では、奴隷売買をしていた「あさましい」自分を愛する恵みの神を歌っています。

・「立ち上がって下さい」：遠く、隠れているように見える主なる神に対して、信仰者は「立ち上がってください。御手を上げてください」（「貧しい人を忘れないでください」12 節）と願います。主なる神は、貧しい人の状況を「御覧になり」、「顧みて」くださり（14 節）、「助けてくださる」（15 節）。

・みなし子：「みなし子」が 14 節、18 節に突然登場しますが、エレミヤ 6:5-6 に「寄留の外国人、孤児、寡婦」を愛するように勧められ、「みなし子」は、社会的支援者を失った貧しい人の代表です。私たちに中に身寄りのない人がいるのでしょうか？ 私はどうでしょうか？

・16 節で「主は世々限りなく王」と告白されます。真の王は正義と慈しみをもって社会的弱者のために裁きをして下さるお方です。「願いを聞き」（シャーマー）、「彼らの心を確かにし（ターキン 堅くし）、あなたの耳を「聴くように準備する」（カーシャブ 注意し鋭くする）。「異邦の民」（16 節）は 9:6、16、18、21 にも登場しますが、イスラエルが外国勢力によって再び脅かされることがないようにとの思いでしょうか。しかし、「寄留の外国人」を大切にせよと命じられてもいます。私たちの社会はどうでしょうか？ 外国人に暮らしやすいクニは自国民にも暮らし易いと言われていました。